

資料3 本県で想定される災害リスク（増補版）

防災危機管理課

1. 本県で過去に発生した主な災害

発生年	水 害
1959年	8月 台風7号により1907年以来の大被害 特に釜無川・大武川・早川・重川で土石流による被害甚大 死者90人、負傷者794人
1959年	9月 台風15号（伊勢湾台風）により被害が拡大 死者15人
1961年	6月 梅雨前線豪雨により東山梨郡の大沢山で崖崩れ、倒木と土砂が西の沢を せき止め、29日土石流となって牧丘町（北原地区）を襲い、死者5人
1966年	9月 前線・台風26号豪雨のため足和田村（根場地区）等で土石流が発生 死者175人
1982年	8月 台風10号豪雨により大月市浅川地区・秋山村無生野地区で土石流が発 生、早川の氾濫で早川町の一部が孤立 死者7人
1983年	8月 5号・6号と続いた台風の豪雨により大月市・富士吉田市の東部で被害 拡大、道路・鉄道等全交通機関が不通、死者3人
1991年	8月 台風12号豪雨により大月で日雨量395mm 大月市の国道20号で土砂崩壊、死者7人
2000年	9月 秋雨前線と台風14号による大雨で県の中西部に被害が集中 甲府で24時間雨量294.5mm、床上浸水102c、床下浸水525棟
2003年	8月 台風10号により県内で大雨 死者1人
2004年	10月 台風23号により県内で大雨 甲府市善光寺町で土砂崩れ発生、床上浸水57棟
2011年	9月 台風第12号による大雨と暴風 半壊1棟、一部破損3棟、床下浸水13棟 土石流等8件、地すべり1件、がけ崩れ8件
2017年	10月 台風第21号及び前線による大雨及び暴風等 一部損壊1棟、床上浸水2棟、床下浸水7棟 土石流等1件、地すべり1件、がけ崩れ1件
2018年	9月 台風第24号による暴風・大雨等 半壊8棟、一部破損82棟、床上浸水5棟、床上浸水3棟 土石流等1件、がけ崩れ2件、負傷者（軽傷）1名
2019年	10月 台風19号による大雨により、大月市の国道20号で橋梁陥没 勝沼・大月・上野原・富士川・古関・切石・南部の気象台観測所で日最大雨 量を更新 床上浸水2棟、床下浸水3棟、土砂流入3棟

発生年	地震被害
1923年	『関東大震災』 9月1日 11時58分発生 M7.9 甲府 震度6 県内死者20人
1944年	『東南海地震』 12月7日 13時35分発生 M7.9 甲府 震度5 県内負傷者2人
1983年	『山梨県東部地震』 8月8日 12時47分発生 M6.0 甲府 震度4 県内負傷者5人
2011年	『東北地方太平洋沖地震』 3月11日 14時46分発生 M9.0 三陸沖東方 70km 震源の深さ 24km 甲府 震度5弱 中央市、忍野 震度5強 軽傷2人、住家被害（一部破損）4棟 非住家被害2棟（公共建物1棟、その他1棟）
2011年	『静岡県東部を震源とする地震』 3月15日 22時31分発生 M6.4 富士山頂南 4～5km 震源の深さ 14km 甲府 震度4 忍野村、山中湖、河口湖 震度5強 軽傷2人、住家被害（一部破損）15棟 非住家被害1棟（その他1棟）

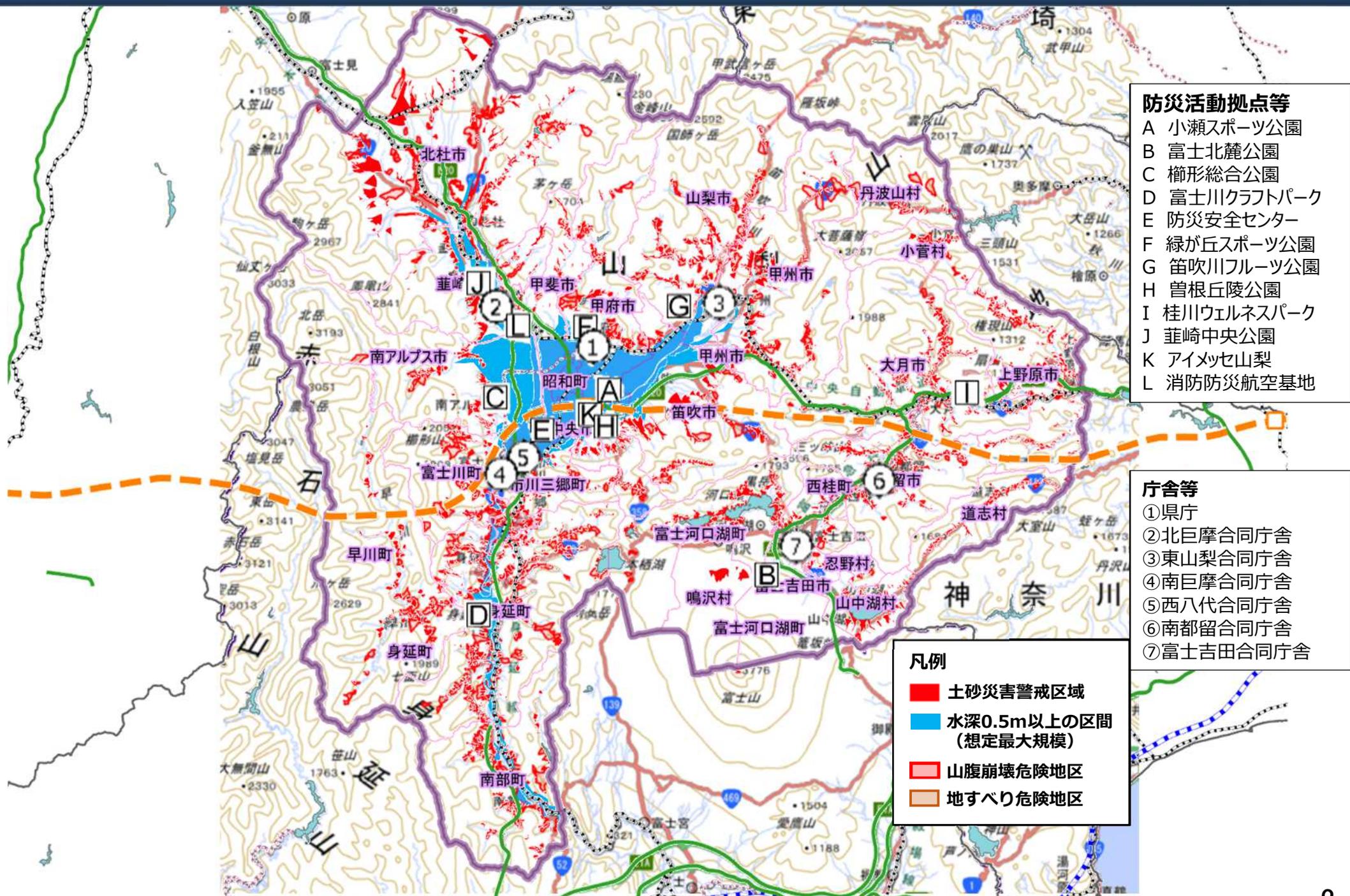
発生年	雪 害
2014年	2月14～15日 最深積雪 甲府114cm、河口湖143cm ※観測史上1位 死者5人、重傷59人、軽傷88人 全壊13棟、半壊32棟、一部破損1,799棟 県内高速道路の全面通行止め、国道の一部通行止め、鉄道各線の運 転見合わせにより、県内の交通網が一時麻痺状態

※水害：死者が出たもの及び浸水被害、土砂災害等10戸以上の被害が生じたものを抽出

地震：県内震源地はM6.0以上かつ県内震度4以上
県外震源地はM6.0以上かつ県内震度5以上 を抽出

出典：気象庁、山梨日日新聞、甲府市災害史、山梨県立博物館資料
消防庁災害年報より作成

2. 浸水想定区域・土砂災害警戒区域・山地災害危険地区



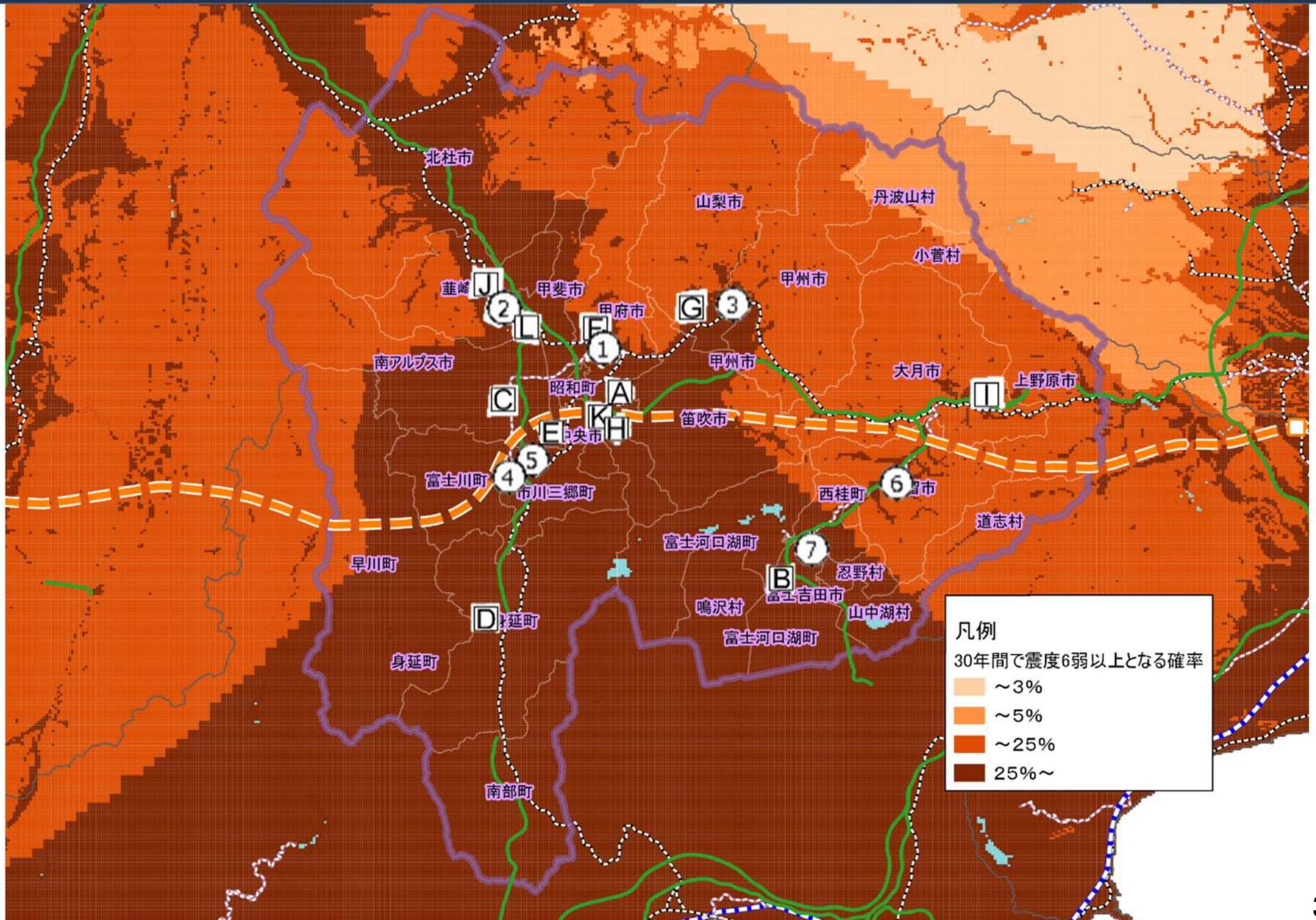
- 防災活動拠点等**
- A 小瀬スポーツ公園
 - B 富士北麓公園
 - C 櫛形総合公園
 - D 富士川クラフトパーク
 - E 防災安全センター
 - F 緑が丘スポーツ公園
 - G 笛吹川フルーツ公園
 - H 曽根丘陵公園
 - I 桂川ウェルネスパーク
 - J 韮崎中央公園
 - K アイメッセ山梨
 - L 消防防災航空基地

- 庁舎等**
- ① 県庁
 - ② 北巨摩合同庁舎
 - ③ 東山梨合同庁舎
 - ④ 南巨摩合同庁舎
 - ⑤ 西八代合同庁舎
 - ⑥ 南都留合同庁舎
 - ⑦ 富士吉田合同庁舎

凡例

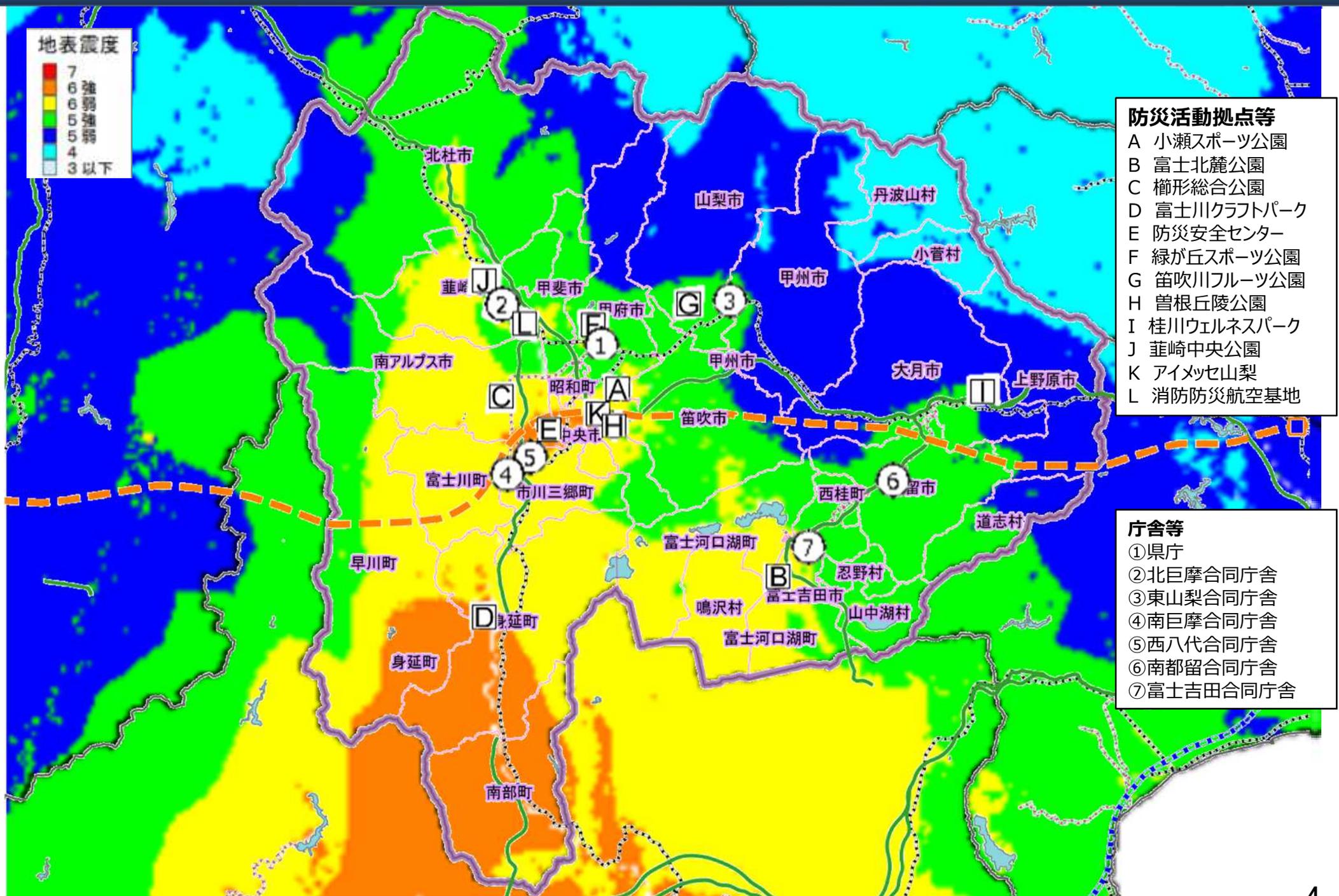
- 土砂災害警戒区域
- 水深0.5m以上の区間
(想定最大規模)
- 山腹崩壊危険地区
- 地すべり危険地区

3. 30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布



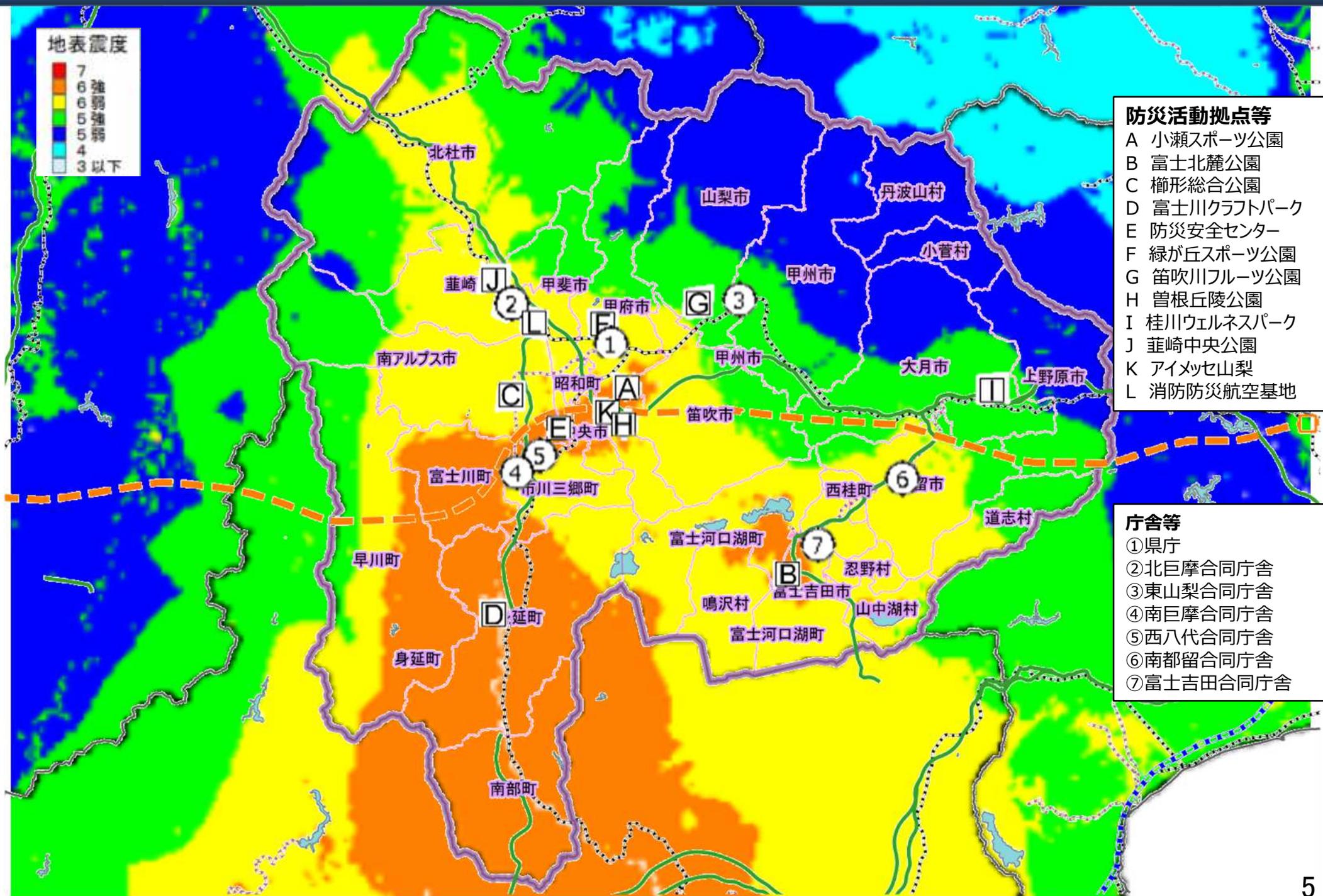
出典：防災科学技術研究所「地震ハザードステーション」より、確率論的地震動予測地図（2019年基準、すべての地震、平均ケース）より作成

4. 震度想定（南海トラフ地震）（基本ケース）



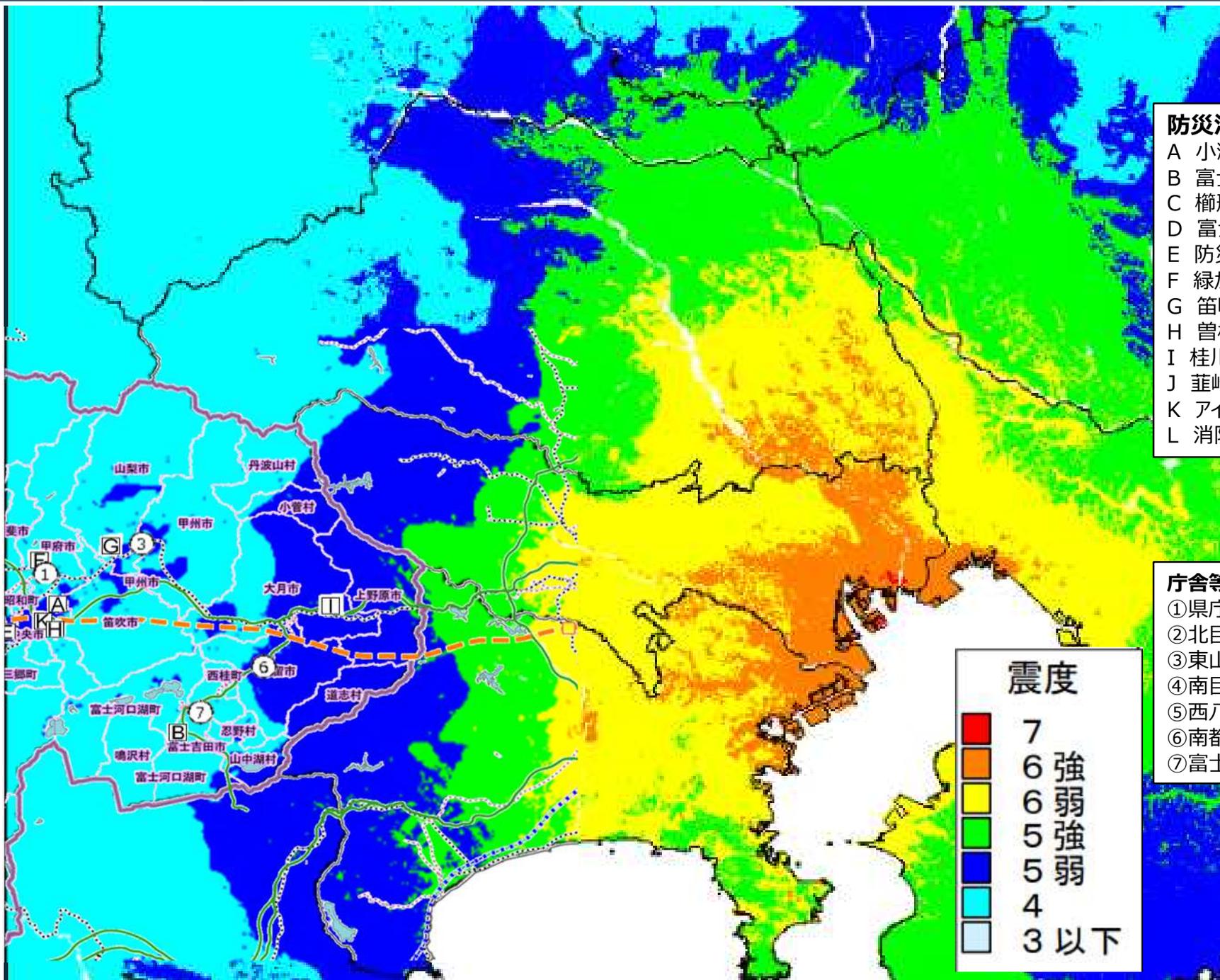
出典：内閣府「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」震度分布図（基本ケース）

4. 震度想定（南海トラフ地震）（東側ケース）



出典：内閣府「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」震度分布図（東側ケース）

5. 震度想定（首都直下地震）（都心南部直下）

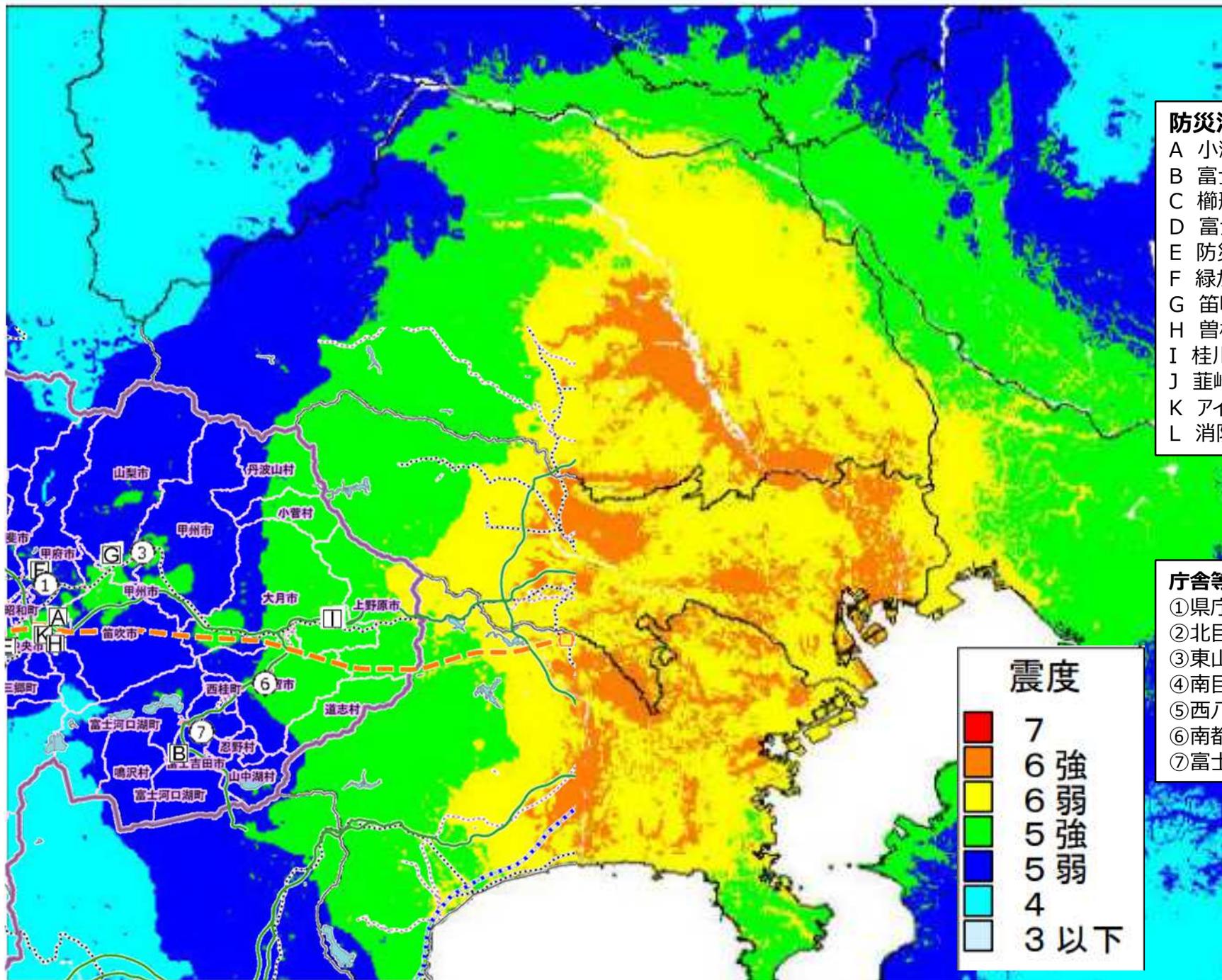


- 防災活動拠点等**
- A 小瀬スポーツ公園
 - B 富士北麓公園
 - C 櫛形総合公園
 - D 富士川クラフトパーク
 - E 防災安全センター
 - F 緑が丘スポーツ公園
 - G 笛吹川フルーツ公園
 - H 曾根丘陵公園
 - I 桂川ウェルネスパーク
 - J 韮崎中央公園
 - K アイメッセ山梨
 - L 消防防災航空基地

- 庁舎等**
- ① 県庁
 - ② 北巨摩合同庁舎
 - ③ 東山梨合同庁舎
 - ④ 南巨摩合同庁舎
 - ⑤ 西八代合同庁舎
 - ⑥ 南都留合同庁舎
 - ⑦ 富士吉田合同庁舎



5. 震度想定（首都直下地震）（立川市直下）

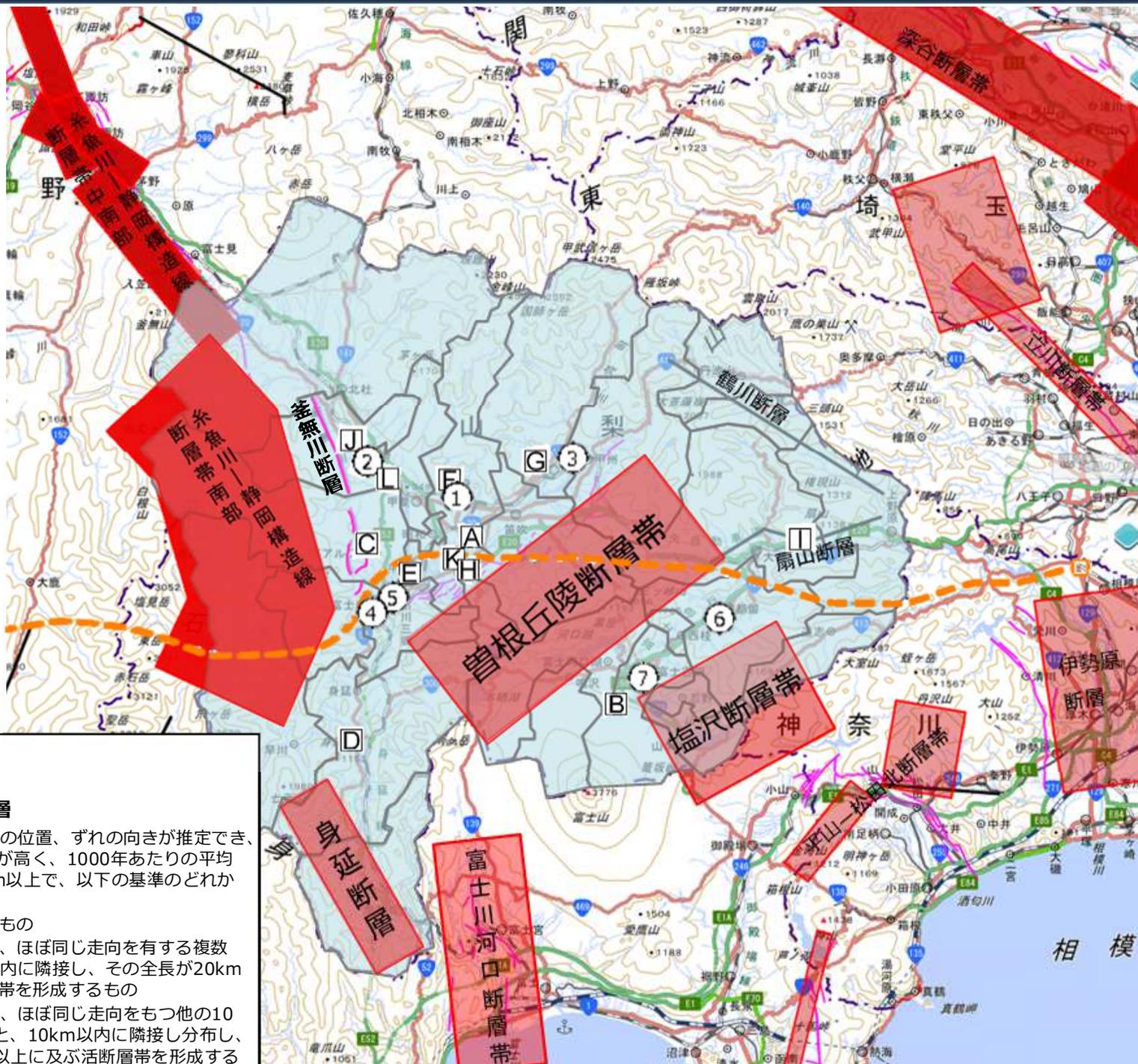


- 防災活動拠点等**
- A 小瀬スポーツ公園
 - B 富士北麓公園
 - C 櫛形総合公園
 - D 富士川クラフトパーク
 - E 防災安全センター
 - F 緑が丘スポーツ公園
 - G 笛吹川フルーツ公園
 - H 曾根丘陵公園
 - I 桂川ウェルネスパーク
 - J 韮崎中央公園
 - K アイメッセ山梨
 - L 消防防災航空基地

- 庁舎等**
- ① 県庁
 - ② 北巨摩合同庁舎
 - ③ 東山梨合同庁舎
 - ④ 南巨摩合同庁舎
 - ⑤ 西八代合同庁舎
 - ⑥ 南都留合同庁舎
 - ⑦ 富士吉田合同庁舎



山梨県周辺の活断層の位置等



防災活動拠点等

- A 小瀬スポーツ公園
- B 富士北麓公園
- C 櫛形総合公園
- D 富士川クラフトパーク
- E 防災安全センター
- F 緑が丘スポーツ公園
- G 笛吹川フルーツ公園
- H 曾根丘陵公園
- I 桂川ウェルネスパーク
- J 韮崎中央公園
- K アイメッセ山梨
- L 消防防災航空基地

庁舎等

- ① 県庁
- ② 北巨摩合同庁舎
- ③ 東山梨合同庁舎
- ④ 南巨摩合同庁舎
- ⑤ 西八代合同庁舎
- ⑥ 南都留合同庁舎
- ⑦ 富士吉田合同庁舎

凡例

- 主要活断層帯
- その他の活断層

※主要な活断層：断層の位置、ずれの向きが推定でき、活断層である確実性が高く、1000年あたりの平均的なずれの量が0.1m以上で、以下の基準のどれかを満たすもの

- I. 長さ20km以上のもの
- II. 長さ10km未満で、ほぼ同じ走向を有する複数の活断層が5km以内に隣接し、その全長が20km以上に及ぶ活断層帯を形成するもの
- III. 長さ10~20kmで、ほぼ同じ走向をもつ他の10km以上の活断層と、10km以内に隣接し分布し、その全長が20km以上に及ぶ活断層帯を形成するもの

山梨県周辺の活断層の状況

分布	名称	ケース分類	マグニチュード	最大震度予測(県内)	地震発生確率		平均活動間隔
					30年以内	50年以内	最新活動時期
主に県外に所在	深谷断層帯		7.9程度	5弱	ほぼ0~0.1%	ほぼ0~0.2%	10,000年-25,000年程度 約6,200年前以後-約5,800年前以前
	立川断層帯		7.4程度	5強	0.5~2%	0.8~4%	10,000年-15,000年程度 約20,000年前-13,000年前
	伊勢原断層		7.0程度	5強	ほぼ0%~0.003%	ほぼ0%~0.005%	4,000年-6,000年程度 5世紀以後-18世紀初頭以前
	平山-松田北断層帯		6.8程度以上	5強	0.09~0.6%	0.2~1%	4,000年-5,000年程度 約2,700年前
	富士川河口断層帯	ケースa	8.0程度	-	10~18%	20~30%	約150年-300年 13世紀後半以後-18世紀前半以前
		ケースb	8.0程度	-	2~11%(以下)	4~20%(以下)	約1,300年-1,600年 6世紀以後-9世紀以前、もしくはそれ以後
	糸魚川-静岡構造線断層帯	中南部(諏訪湖北方-下葛木)	7.4程度	6弱	0.9~8%	2~10%	1,300年-1,500年程度 約1,300年前以後-約900年前以前
南部(白州-富士見山) ※		7.6程度	6弱	ほぼ0~0.1%	ほぼ0~0.2%	4,600年-6,700年程度 約2,500年前以後-約1,400年前以前	
主に県内に所在	塩沢断層帯		6.8程度以上	7	4%以下	6%以下	800年程度以上 不明
	曾根丘陵断層帯		7.3程度	7	1%	2%	概ね2,000年-3,000年 約10,000年前以後
	身延断層		7.0程度	6弱	0.75%程度	1.24%程度	不明 不明

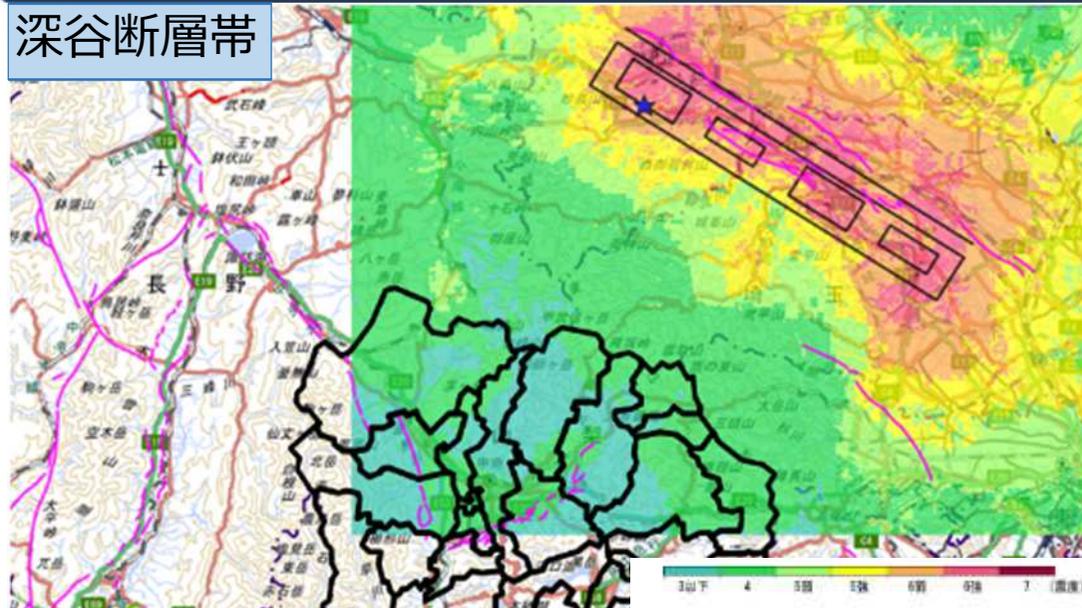
※ 第1回検討会議資料中の「2-2.本件における災害リスク(浸水・活断層)」で示した活断層名は、H8山梨県地震被害調査報告書からとったが、第2回からは、地震調査推進研究本部(地震本部)発表の断層名で表記することとした。釜無川断層は、緯度・経度からみて、糸魚川-静岡構造線断層帯南部区間の一部である下円井断層及び市之瀬断層群を示している。藤の木・愛川断層は、一部は曾根丘陵断層帯、一部は扇山断層として評価されているものとみる。

注1 今後30年の間に地震が発生する可能性が我が国の活断層の中で、**やや高いグループ**(0.1%以上~3%未満)、**高いグループ**(3%以上)

注2 鶴川断層及び扇山断層は、地震本部「関東地域の活断層の長期評価(第一版)」(H27.4)において、「活断層の可能性が低い構造」と評価されているが、産業技術総合研究所は活断層と評価(ただし、鶴川断層の30年内地震発生確率データはない。扇山断層は約0.1%とされている(出典:産総研HPより))。

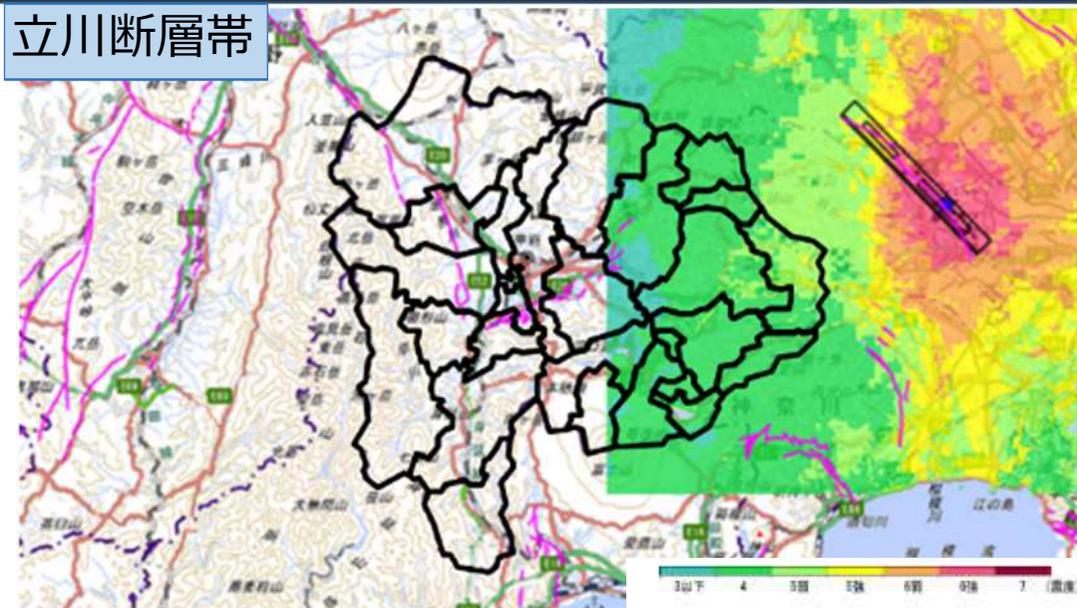
それぞれの活断層による山梨県への影響 1/3

深谷断層帯



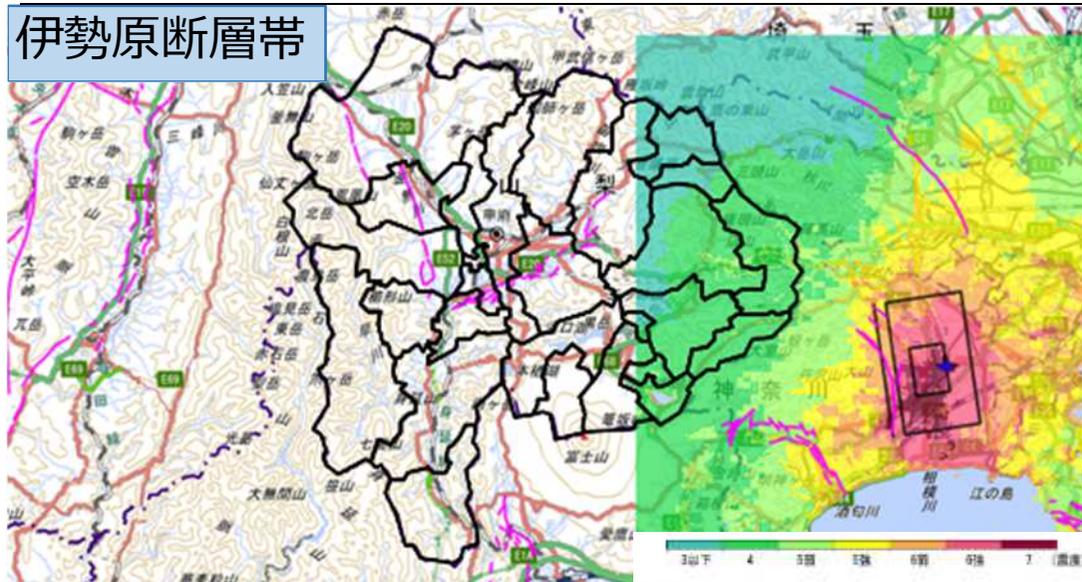
- 県内は最大で震度4程度の予測
- 今後30年内の地震発生確率は、やや高いグループに属する

立川断層帯



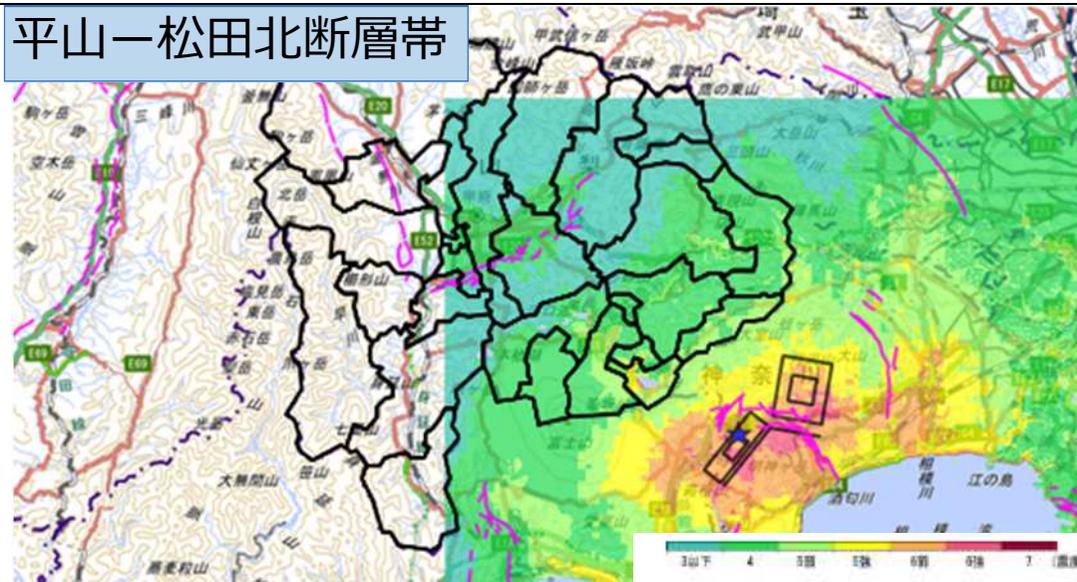
- 県内は最大で震度5強程度の予測
- 今後30年内の地震発生確率は、やや高いグループに属する

伊勢原断層帯



- 県内は最大で震度5弱程度の予測
- 今後30年内の地震発生確率は、低いグループに属する

平山ー松田北断層帯



- 県内は最大で震度6弱程度の予測
- 今後30年内の地震発生確率はやや高いグループに属する

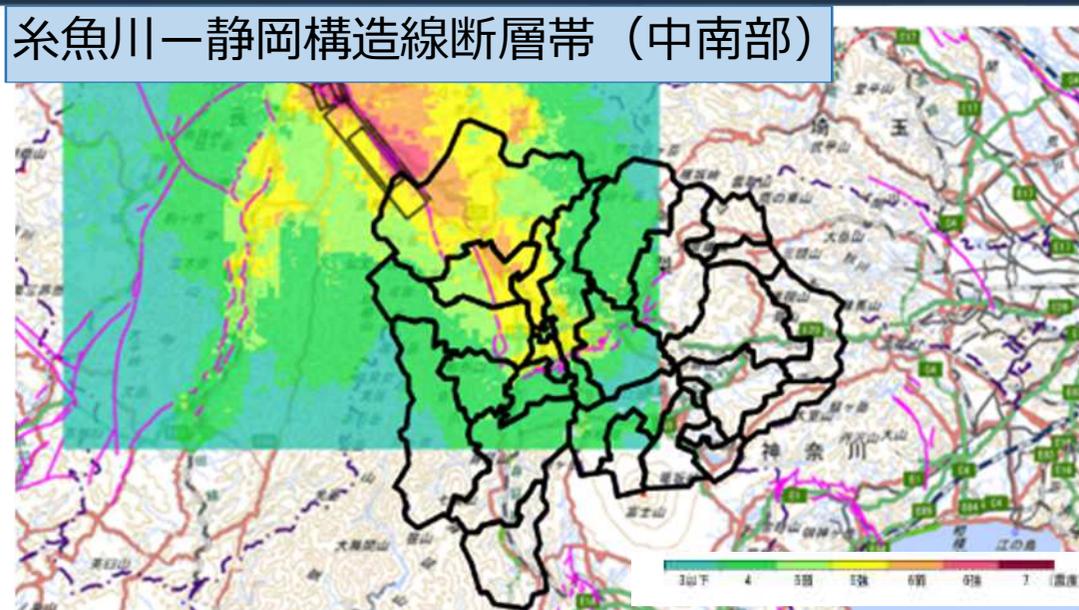
それぞれの活断層による山梨県への影響 2/3

富士川河口断層帯



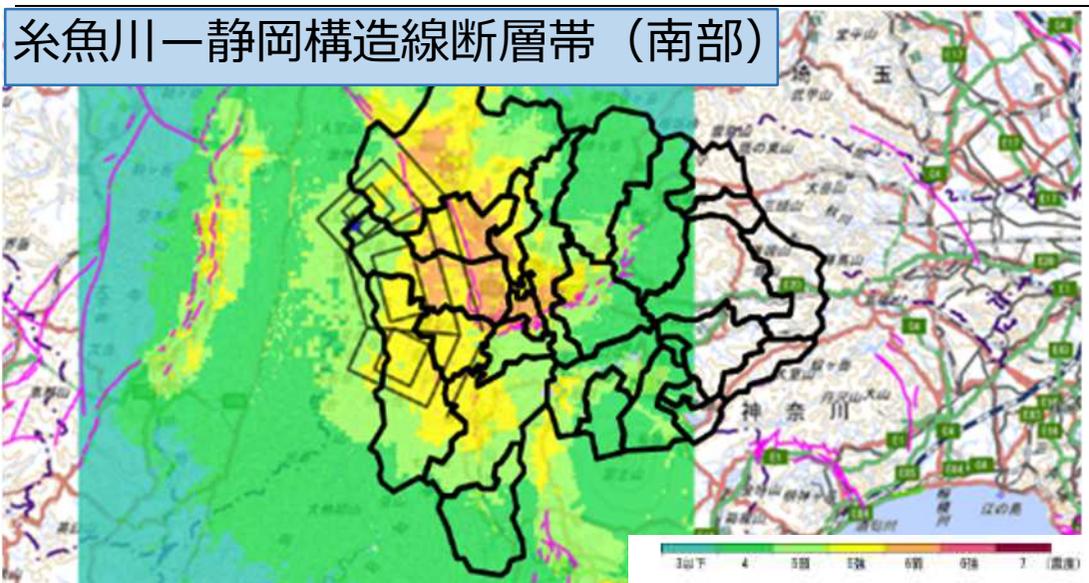
- 詳細な震度予測なし。駿河トラフの海溝型地震に伴い活動してきたと推測
- 今後30年内の地震発生確率は、高いグループに属する

糸魚川—静岡構造線断層帯（中南部）



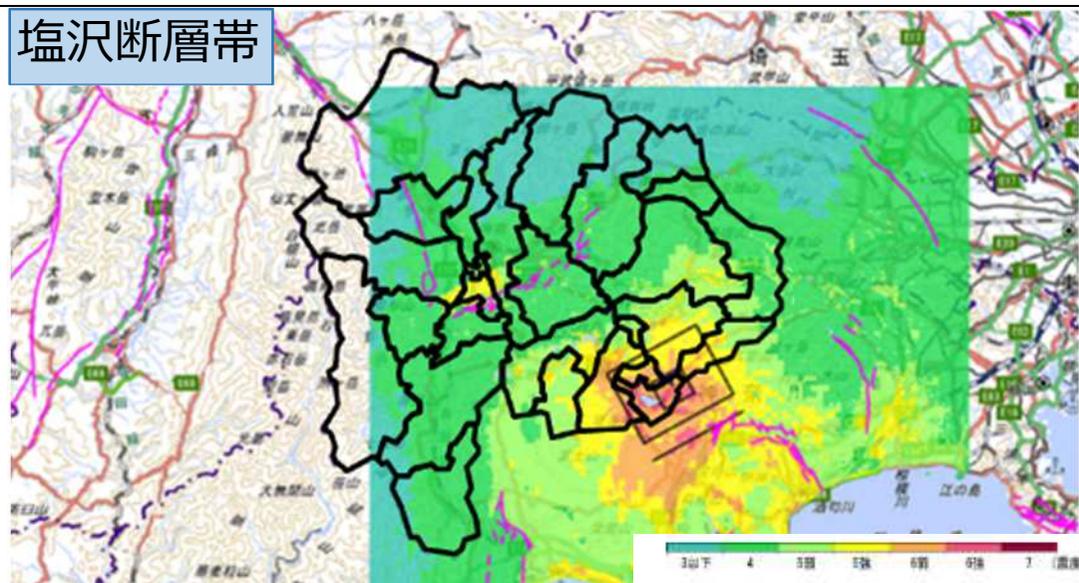
- 県内は北杜市を中心に最大で震度6弱程度の予測
- 今後30年内の地震発生確率は、高いグループに属する

糸魚川—静岡構造線断層帯（南部）



- 県内は最大で震度6強程度の予測
- 今後30年内の地震発生確率は、やや高いグループに属する

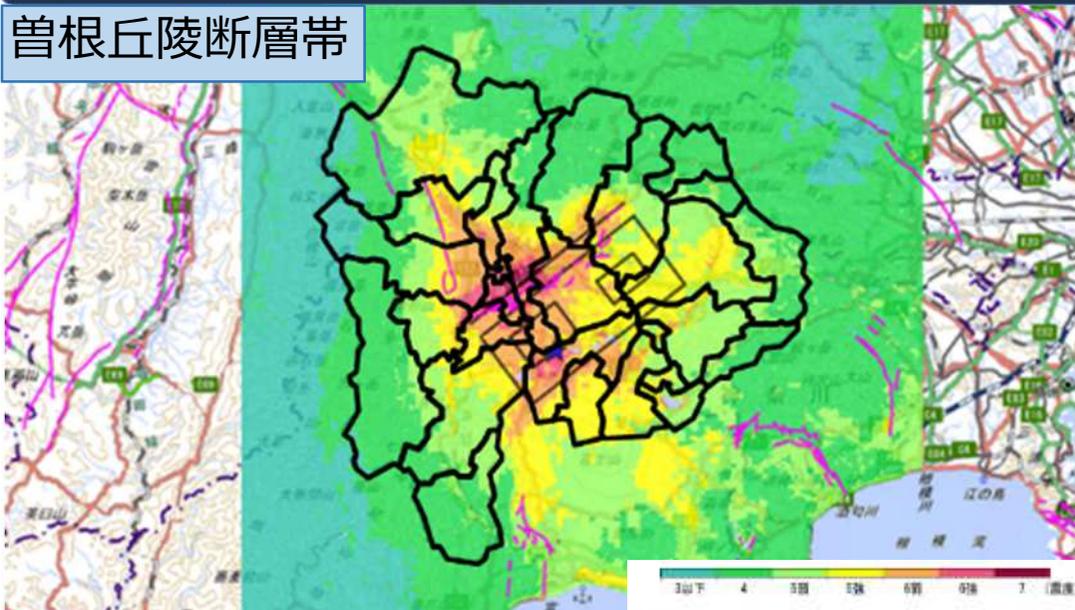
塩沢断層帯



- 県内は富士北麓地域の一部で最大で震度7の予測
- 今後30年内の地震発生確率は、高いグループに属する

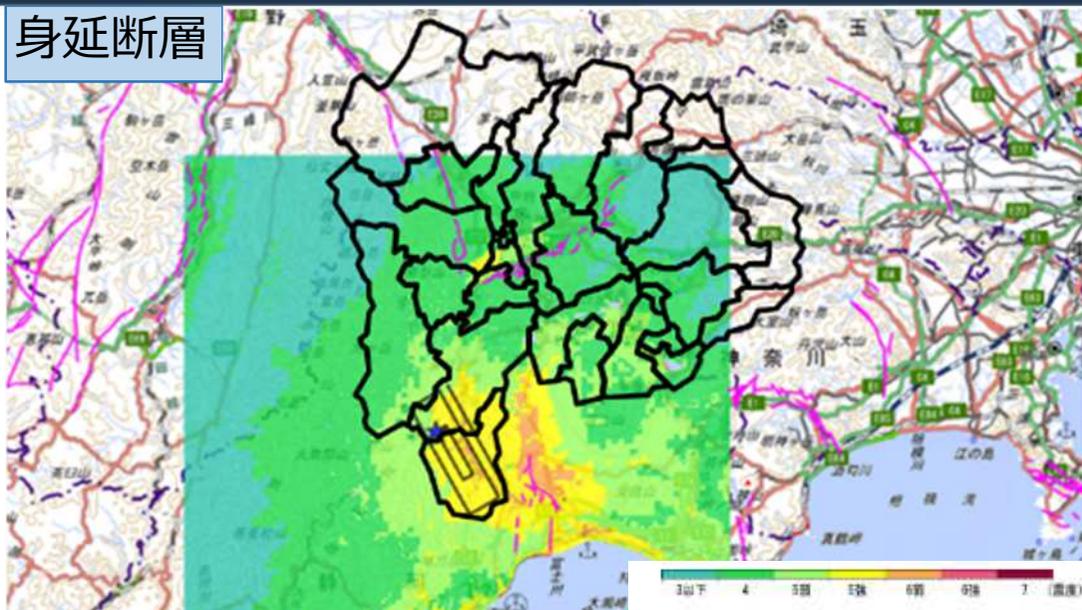
それぞれの活断層による山梨県への影響 3/3

曽根丘陵断層帯



- 県内は甲府盆地を中心に最大で震度7の予測
- 今後30年内の地震発生確率は、やや高いグループに属する

身延断層



- 県内は峡南地域を中心に最大で震度6強程度の予測
- 平均活動間隔及び最新活動時期が不明であることから、地震発生確率が算出できない※防災科学技術研究所「地震ハザードステーション」においては、30年以内発生確率0.75とされている

液状化リスク（東海地震想定（H25.3））

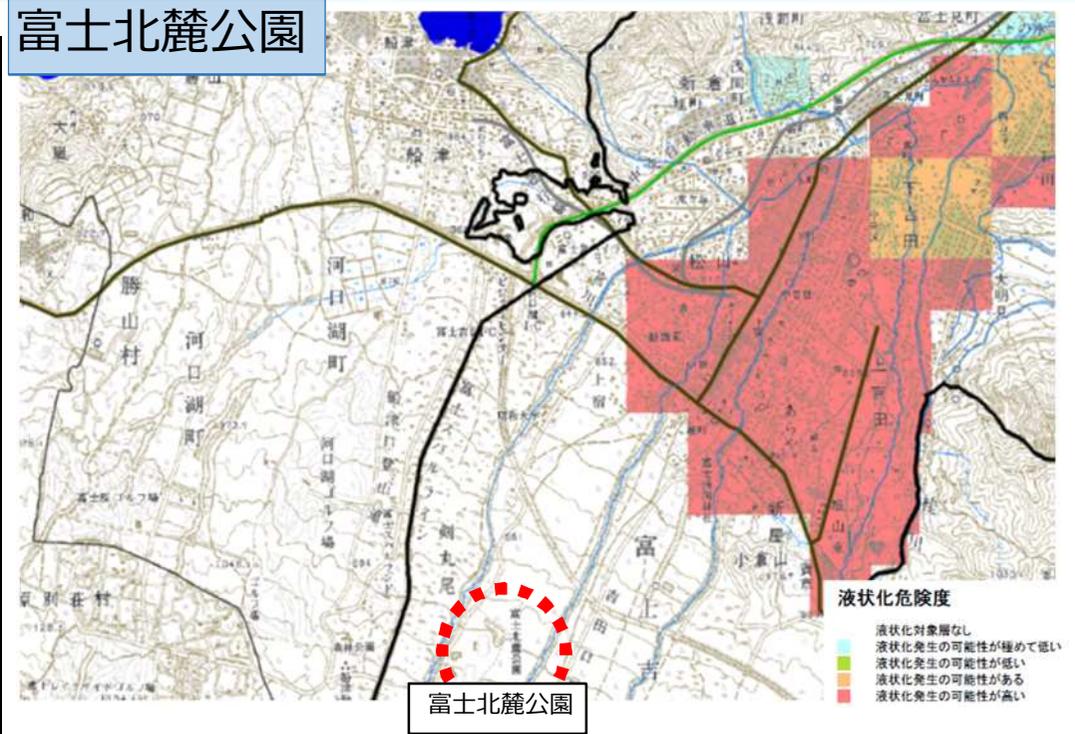


液状化マップ

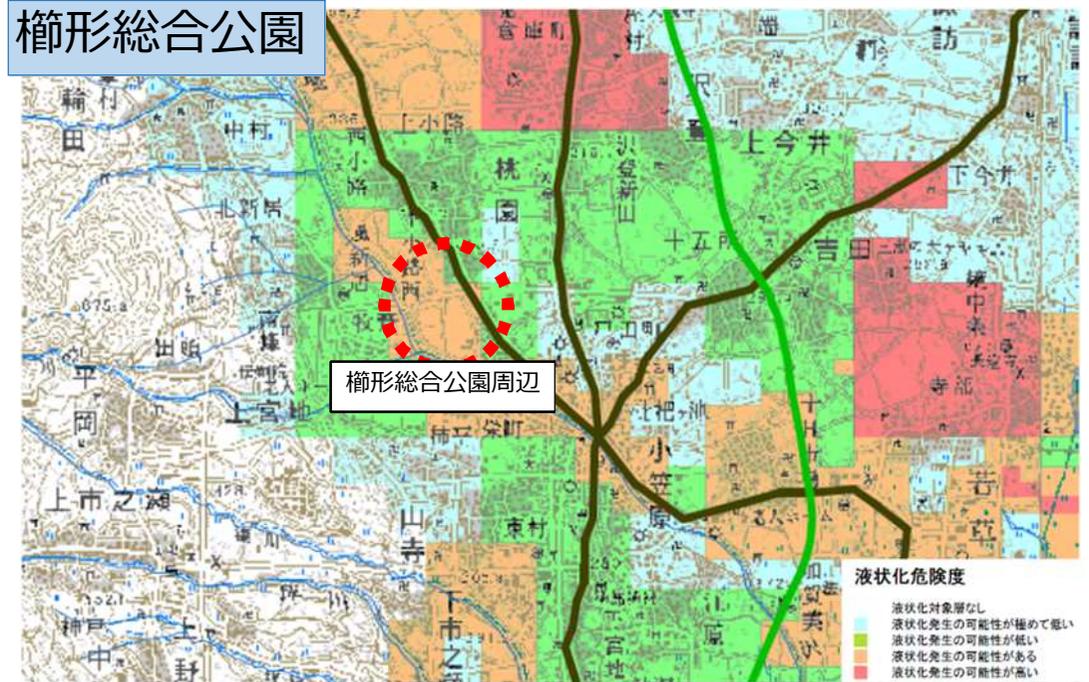
小瀬スポーツ公園、リニア駅周辺



富士北麓公園



櫛形総合公園

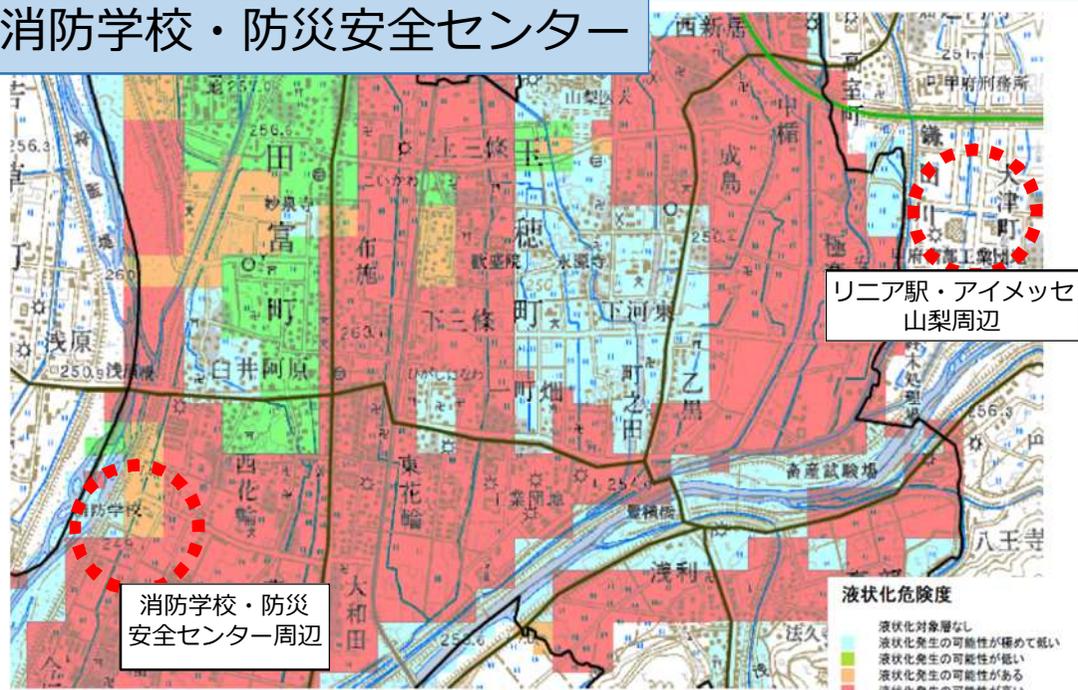


富士川クラフトパーク

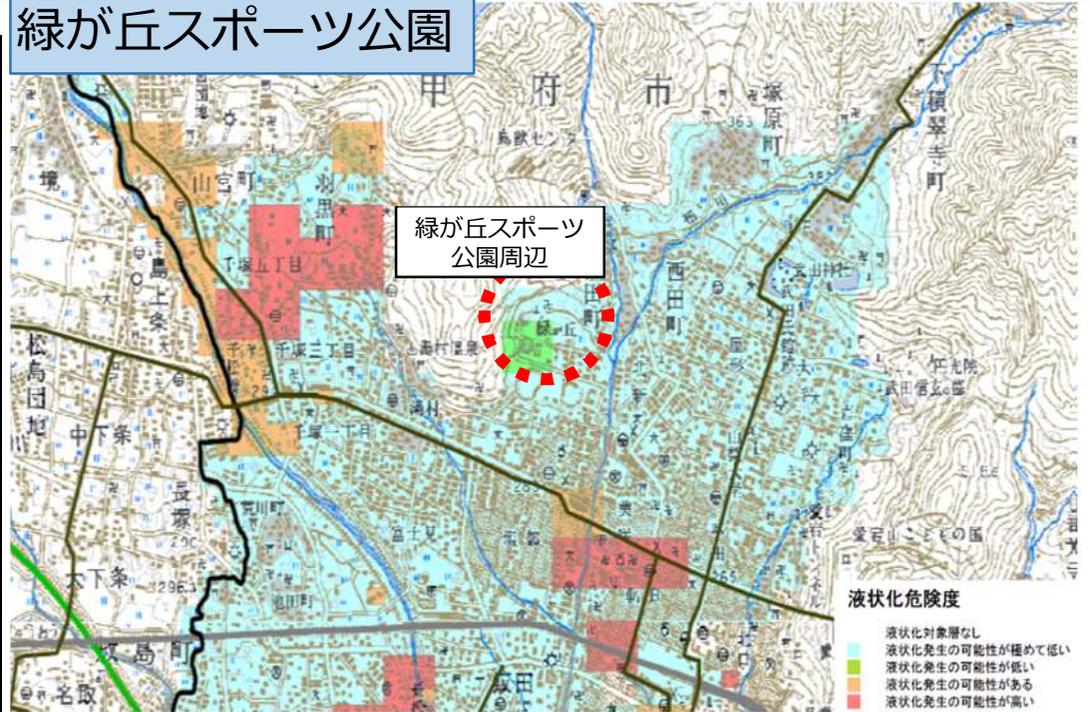


液状化マップ

消防学校・防災安全センター



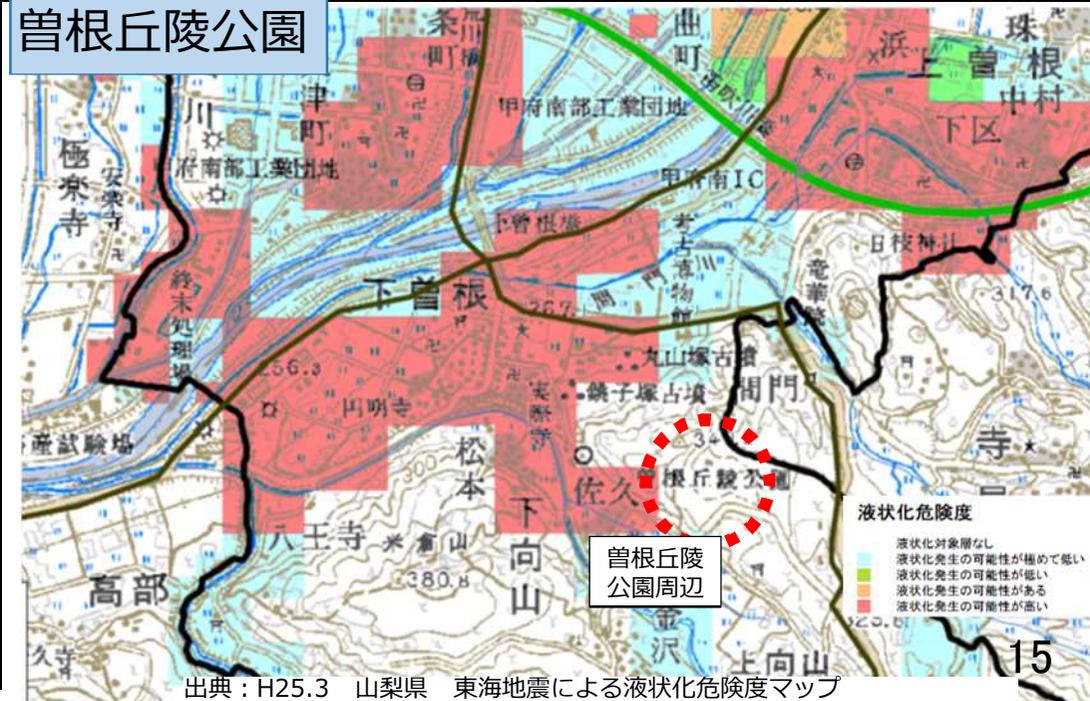
緑が丘スポーツ公園



笛吹川フルーツ公園



曽根丘陵公園



液状化マップ

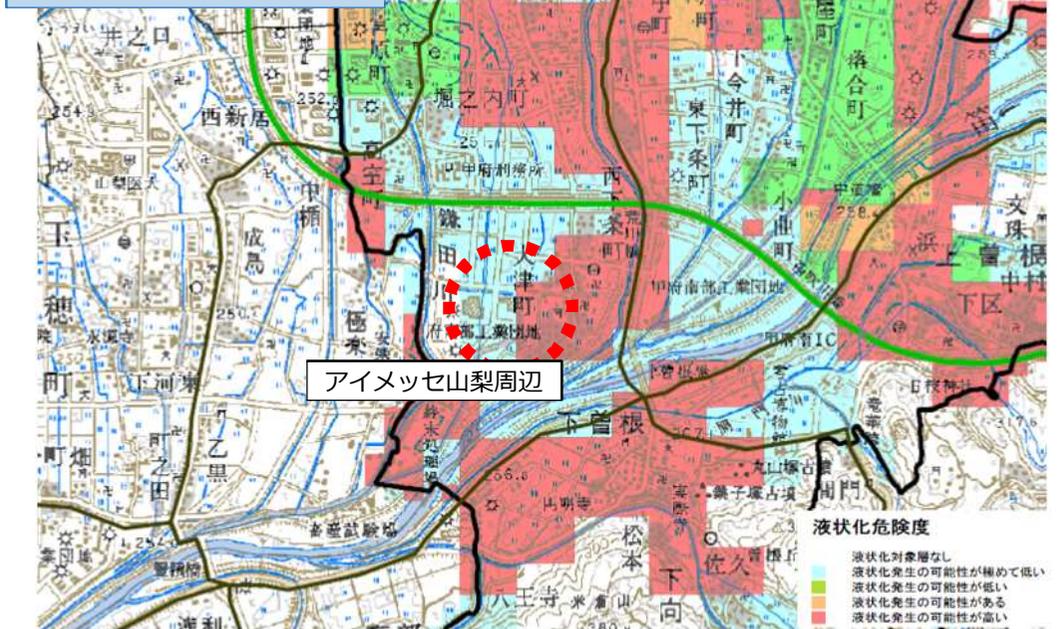
桂川ウェルネスパーク



韮崎中央公園



アイメッセ山梨



消防防災航空基地

